看護実践学 ★

［講義］　第６学年　前期　選択　1単位

《担当者名》教授／塚本　容子（看護福祉学部）
講師／石角　鈴華（看護福祉学部）　　講師／山田　拓（看護福祉学部）　　助教／三津橋　梨絵（看護福祉学部）

【概　要】
薬剤師と看護師は他の専門職と共に、患者の健康予防・回復・促進のためにチーム医療を提供する。コロナ禍においては、医療・福祉の連携の課題はより一層浮き彫りにされ、多職種連携の重要性については、これまで以上に強調されている。その中で、薬物療法は患者にとって治療プロセスでの大きな配分を占め、病院だけでなく、地域においても薬剤師と看護師との協働は非常に重要である。協働するためには、お互いの役割を知り、共通の理解が不可欠である。本科目においては、チーム医療について学習し、その中での看護師と薬剤師の役割を学習する。本科目を担当する教員は、すべて高度実践看護師としての経験を積んだ教員であり、実際の臨床現場の現状を再現しながら、学びを深める。

【全体目的】
本科目はチーム医療提供のための、多職種における共通理解を深めることを目的とする。また医療や福祉の現場における臨床課題を学び、修了後の活動に役立てることを目的とする

【学修目標】
1)　医療・福祉現場におけるチーム医療の重要性、そして推進していくために必要な概念枠組みを理解することができる
2)　チーム医療推進するために、看護師の役割を知り、患者が必要とする薬剤師の役割について説明することができる
3）現在の医療・福祉の課題について、実際の事例から学び、その中からチーム医療及び多職種連携の在り方を検討することができる
4）社会格差と健康格差の関係について、Local及びGlobalな視点から検討し、その上でのチーム医療・多職種連携について検討する
5）チーム医療の理解を深めた上で、多職種連携における課題を明確にする
6）チーム医療における薬剤師の役割を考察できる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	医療・福祉現場における医療の課題とチーム医療の重要性	★現在の医療・福祉での地域住民の健康課題についての概観を説明し、その中でチーム医療がなぜ重要であるかを説明できる。合わせて、チーム医療構築について必要な枠組みについて説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(4)-①-2	塚本　容子
2	多職種連携の推進要因と障害 看護師と薬剤師の協働	★多職種連携を推進するための要因や障害について説明できる。実際の事例を基に、どのように協働しているのか説明できる。その中で、看護師の役割について理解する。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(4)-①-3	塚本　容子
3	対象者の理解	★コロナ禍で、社会格差が健康格差への影響がより強調されている。今後、医療専門職のチームとして、それらの課題にどのように取り組む必要があるのか説明できる。日本の課題だけでなく、Globalな視点で健康課題について説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(4)-①-2	山田　拓
4	がんとチーム医療	★がん患者の体験や治療について学び、がん患者を支える薬剤師が果たす役割の重要性と、看護師や多職種との連携のあり方について考えることができる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》	三津橋　梨絵

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		F-(4)-①-2	
5	感染対策とチーム医療	★医療に関連する施設における感染対策実施の目的と具体的な活動内容について学び、薬剤師が果たす役割の重要性と、看護師や多職種との連携のあり方について考えることができる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(4)-①-2	山田　拓
6	抗菌薬適正使用とチーム医療	★医療に関連する施設における抗菌薬適正使用支援チームの活動目的と具体的な活動内容について学び、薬剤師が果たす役割の重要性と、看護師や多職種との連携のあり方について考えることができる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(4)-①-2	山田　拓
7	ポリファーマシーとチーム医療	★高齢者におけるポリファーマシーのリスクを理解し、潜在的不適切処方を減少させるための薬剤師の役割と多職種との連携を考えることができる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(4)-①-2	石角　鈴華
8	在宅医療におけるチーム医療	★在宅医療における訪問看護と訪問薬剤師の活動の実際を知り、患者を中心とした職種間連携やチーム医療の在り方について考えることができる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(4)-①-3	石角　鈴華
9 ～ 10	プレゼンテーション	★在宅医療における薬剤師の役割に関する課題についてパワーポイントを用いてプレゼンテーションを行うことができる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 F-(4)-①-2,3	塚本　容子 石角　鈴華 山田　拓 三津橋　梨絵

【授業実施形態】
面接授業
※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】
講義後のミニテスト又はレポートの提出（50%）、プレゼンテーション評価（50%）

【教科書】
特定しない

【参考書】
講義資料を参照すること

【学修の準備】
最初の講義の際に、今後の学びについて説明し、準備についても解説する。
合わせて、最初の講義までに、今までの講義を振り返り、地域住民にとってどのような健康課題があるのか、考えておく。
復習として、配付プリントや講義メモを活用して授業内容を確認し、理解を深めること（100分）

【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】
F 薬学臨床

（4）チーム医療への参画【①医療機関におけるチーム医療】2,3

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】
3．多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域的および国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

【実務経験】
塚本　容子（ナースプラクティショナー、保健師、看護師）、石角　鈴華（診療看護師）、山田　拓（診療看護師、感染症看護専門看護師、感染管理認定看護師）、三津橋　梨絵（がん看護専門看護師）

【実務経験を活かした教育内容】
以下の実務経験を活かし、実践的教育を行う。
講義1～3：国内外の病院、プライマリ・ケア、地域医療（ナース・プラクティショナー、保健師、看護師）
講義4：病棟（がん看護専門看護師）
講義5～6：一般病院（ナース・プラクティショナー、感染症看護専門看護師、感染管理認定看護師）
講義7～8：プライマリ・ケア、地域医療（ナース・プラクティショナー）